

東京から景観を考える ～江戸城天守閣再建の意義と課題～

寺崎 友芳

株式会社日本政策投資銀行 地域振興グループ 副主任研究員

東京のランドマークとは？

外国人に、東京の代表的な景観は？と問えば、果たして何処をイメージするであろうか？ 我々日本人が、ニューヨークなら摩天楼や自由の女神、ロンドンならビッグベンやロンドン塔、パリならエッフェル塔やシャンゼリゼ通り、上海なら外灘（バンド）の洋風建築や浦東の高層ビル群、北京なら紫禁城、ソウルなら南大門¹や景福宮をイメージするように東京のイメージとなるようなランドマークはあるであろうか？ 確かに浅草寺に行けば、欧米からとおぼしき旅行者が見られるし、お台場や東京タワーでは中国語や韓国語をよく耳にする。しかし、浅草寺が日本の代表的な寺院かと言え、力強さや活気は感じて、侘び・寂びといった落ち着いた和の雰囲気は感じられないし、完成時は世界一の高さを誇った東京タワーも現在は上海の東方明珠電視塔などに抜かされトップ20からも脱落している。お台場からの展望は素晴らしいが、赤く点滅する航空障害灯は目障りで、ニューヨークや上海浦東、香港の摩天楼ほどのインパクトはない。魅力的な都市には魅力的なランドマークがあり、かつ、ランドマーク周辺の回遊性もある。しかし、東京には傑出したランドマークはなく、点在するランドマーク間の回遊性にも乏しい。東京スカイツリーは2011年に完成すれば高さ610mの世界一の鉄塔となり、脚光を浴びるだろうが、残念ながら周辺環境の整備には課題がある。訪日外国人にとって印象に残るのが世界には例がないという新宿の不夜城のごとき灯るネオンというのは

寂しい限りである。

江戸城再建の夢

そこで、外国人からみた東京の魅力を高めるために提案したいのは、江戸城天守閣の再建である。予め断っておくが、具体的な計画は何もなく、後に述べるように実現には多くの課題がある。しかし、それでも江戸城天守閣再建はインパクトの大きい都市プロジェクトになると考えている。江戸城は、太田道灌が1457年に築城したのが嚆矢で、その後1590年に駿府から移封された徳川家康が入城、さびれた田舎城だった江戸城を近代的城郭にすべく本格的な増築が始まり、1607年になって5層6階の天守閣が完成した。地上からの高さは58.6メートルで日本一の高さを誇ったという。しかし、その後1657年に明暦の大火によって消失してしまった。4代将軍家綱の補佐役だった保科正之は、江戸庶民の救済を優先すべく、「天守の作事、当分御延引あるべし」として



主の帰りを待つ皇居東御苑の天守台

¹ 2008年2月の火災消失により現在は再建中



江戸図屏風（国立歴史民族博物館）に描かれた天守閣

再建はされなかった。天守閣が存在したのは徳川265年のうち50年足らずであった。現在は、本丸、二の丸、三の丸の跡地は皇居東御苑として1968年から一般開放され、本丸の北端には天守台が静かに残っている。天守閣の再建よりも庶民救済を優先した政策は、江戸幕府の賢明で果敢な判断であったと評価されるが、時が代わり、都市がグローバルな競争に直面しているなか、天守閣の再建は十分に経済合理性に合うようになったのではないか。

江戸城再建を目指す会

そんな夢を実現すべく活動している NPO 法人がある。元 JTB 代表取締役専務の小竹直隆氏が理事



江戸城再建を目指す会の小竹直隆理事長

長を務める「江戸城再建を目指す会」である。小竹氏は、JTB を退職後、東京コンベンション・ビジターズ・ビューロー（現東京観光財団）専務理事としてインバウンド拡大のための企画・調査に従事していたが、東京におけるランドマークの必要性を感じ、江戸城再建を思い立ったという。小竹氏になぜ天守閣なのかと問うと、「歴史的にみれば、戦には不要な天守閣は平和な時代にしか建築されていない。天守閣は天下太平の象徴」という思いがあったという。そのような折に、江戸城再建について同じ提言を論じていた政治評論家の岩見隆夫氏（現当会顧問）の後押しもあり、2004年に任意団体として設立、2006年に東京都から NPO 法人の認証を受けた。2008年には会員数は1,000名を突破、2009年8月末現在の会員数は1,463人にまで拡大している（筆者もその1人である）。現在は、会員数3,000名を目指して活動している。また、会長には太田道灌の18代目子孫で東京海上日動あんしん生命保険元社長の太田資暁氏が就任し、講演活動等を行っている。現在の当会の主な活動は、有識者を集め、江戸城再建の今日的意義を様々な角度から検討する「江戸城再建意義研究会」と、建築専門家によって天守閣の素材、工法、工費、工期等を踏まえた青写真を作成する「天守閣再建基本構想研究会」を立ち上げ、年に数



写真提供：森ビル(株) 当会所有のミニチュア天守閣を森ビルの都市模型に設置したもの

回セミナー形式で研究成果を会員向けに報告している。また、再建天守である大洲城（愛媛県大洲市）の見学ツアーなどのセミナー旅行も開催している。

小竹理事長によれば、江戸城天守閣再建には3つの目的があるという。①魅力ある国づくりを目指す観光立国・日本のシンボルにする、②日本の伝統と文化を象徴するシンボルとして後世に伝える、③世界の人々と親しく交わる国際交流の拠点にする、という3点である。当会は、その目的達成のためには、国民各層の理解と支援の輪を拡げることが必要であるとの認識のもと、現在は、そうしたセミナー活動による「草の根運動」を展開している。そして、次のステップとして再建・築城計画を具体化し、夢を実現しようという長期構想を持っている。小竹氏は、「国民世論が盛り上がれば、自然と政治はその方向に向かっていく」と言う。実際、江戸城再建について東京都の石原知事は、「都や国で造ると言えば「余計な金がかかる」という人もいるが、オリンピックを見据えて民間で復原しようとする人があるならやってもらいたい²」と関心を示している。小竹氏は70代とは思えないほど精力的に活動しており、最後に「私たちには国の宝を造るという夢があります」「夢を形にするのです」と力強く語っていたのが印象的であった。

江戸城天守閣再建の意義

そこで、江戸城天守閣再建の意義について考えてみたい。まず、第一のメリットは、その立地にある。皇居東御苑は丸の内・大手町に隣接しており、天守閣に登閣すれば、緑の彼方、お堀の対岸にそびえ立つ丸の内・大手町の高層ビル群の展望は、自然とのコントラストにより魅力的なものになるだろう。そして何よりも、周辺地区との連携効果が期待できる。

² 2008年3月11日東京新聞

天守閣を降りて本丸跡の広場を通り、坂を下って大番所、百人番所を横目にし、大手門を過ぎれば内堀に出る。お堀沿いを歩いてしばしのあいだ涼を感じ、東京駅を正面に行幸通りを歩み、丸の内仲通りではウィンドーショッピングを楽しむ。そして、有楽町、銀座を抜けて汐留のホテルに向かうというのは、世界に誇れる散策ルートになるのではないだろうか？ 旅行者は、歴史だけでなく、ショッピングやグルメも堪能できる。折しも、丸の内では、今年、



天守台からの本丸広場の展望



天守台北側のパレスサイドビル（9階）屋上から南西方向の展望



パレスサイドビル屋上から南方向の展望



- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------|----------|---------|---------|------|------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|---------|-------|-------|---------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|----------|--------------|----------|
| ① 富士見櫓 | ② 蓮池梁 | ③ 江戸城本丸園 | ④ 松の廊下跡 | ⑤ 富士見多聞 | ⑥ 石室 | ⑦ 本丸 | ⑧ 本丸休憩所 | ⑨ 展望台 | ⑩ 緑の泉 | ⑪ 大番所 | ⑫ 白鳥梁 | ⑬ 同心番所 | ⑭ 百人番所 | ⑮ 汐見坂 | ⑯ 天守台 | ⑰ 東御庁舎 | ⑱ 桃華楽堂 | ⑲ 書院御庁舎 | ⑳ 梅林坂 | ㉑ 天神堂 | ㉒ 陣助の茶屋 | ㉓ 都道府県の木 | ㉔ 二の丸庭木林 | ㉕ この丸庭園 | ㉖ ハナショウブ | ㉗ この丸休憩所 | ㉘ 大手休憩所 | ㉙ 三の丸尚書館 | ㉚ 皇居東御苑管理事務所 | ㉛ 皇宮警察本部 |
|--------|-------|----------|---------|---------|------|------|---------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|-------|--------|--------|---------|-------|-------|---------|----------|----------|---------|----------|----------|---------|----------|--------------|----------|

皇居東御苑の全体図（出典：宮内庁 HP）

コンドル設計の煉瓦造りの三菱一号館（1894年竣工）が復原され、2011年度末には東京駅の復原工事も完了する。江戸から近代、そして現代への時空を超えた浪漫を実感するのではないか。

こうした好立地に歴史的建造物が復原されれば、

外国人観光客も多く訪れるであろう。2008年の訪日外国人は835万人で、うち534万人が東京を訪れている。東京都観光客数等実態調査によれば、訪問目的として「伝統文化／歴史的施設」を挙げた回答は全体では28.3%（複数回答）で、12の選択肢の中で「買い物」、「散策」、「風景」に次ぐ4位となっている（欧米・豪からの旅行者は36.6%で「散策」に次ぐ2位）。このことは、歴史的建造物の少ない東京において、もし、江戸城天守閣のような代表的な城郭が1つでも再現されれば、訪日外国人の誘致を大きく後押しする可能性があることを示している。同調査によれば、東京の外国人旅行者による観光消費額は3,347億円で、生産波及効果は7,345億円にのぼる。もし、1%でも外国人観光客が増えれば、73億円の生産波及効果が生じる。割引率を4%として割引現在価値に換算すれば1800億円以上の経済効果が期待できる。

江戸城再建のコスト

再建のためのコストは、どこまで忠実に再建するかにより全く異なる。前述の江戸城再建を目指す会でも工事費を試算中であるが、2004年に再建された木造の4層4階の大洲城の工事費は14億円³であったので、規模の違いを勘案しても、その20~30倍以内で収まるのではないだろうか。前節で簡便に試算した外国人観光客の増加による波及効果の割引現在価値の範囲内に軽く収まるのは想像に難くない。ところで、東京には、もう1つ、かつての日本橋川の姿を取り戻すべく日本橋上空に架かる首都高速を移設しようという構想がある。しかし、日本橋は首都高速江戸橋ジャンクションに隣接しているため、1000億円~2000億円の費用がかかるとされている。河川上の高速道を撤去した例として、ソウルの清溪川の

³ 2004年8月19日日本経済新聞四国版

上を通る高速道を撤去した事例がよく取り上げられるが、清溪川の高速道は他の高速道と連結していない完結した道路だったからこそ実現できたわけで、首都高速環状線の要所にある日本橋とは単純に比較できない。日本橋川が再現されるとしたら、確かに川縁の魅力が増し、楽しみではあるが、コストがより低く、インパクトもある江戸城天守閣再建も併せて検討する余地はあるのではないだろうか？

天守閣再建のための課題

江戸城天守閣の再建は、非常にコストパフォーマンスの高い公共事業であると考えているが、留意すべき課題、クリアすべき課題も多い。ご案内の通り、江戸城は1867年の大政奉還により明治政府軍に明け渡され、1869年の東京遷都により皇城となった。現在でも皇居東御苑は宮内庁の管轄である。従って、天守閣再建にあたっては、皇室の尊厳をいささかも損なうものであってはならないだろう。現在、天守台からみると、南側に新宮殿、東側に吹上大宮御所、御所が位置しているため、天守閣の存在によって、宮殿や御所を見下ろすことのないよう十分な配慮が必要である。そのため、一定以上の高さの階層では、窓を閉鎖するなど南東側の展望を制限する必要がある。新宮殿と天守台までの直線距離は約600mで天守閣の高さが58.6mである。警視庁庁舎（新宮殿までの直線距離約450m、高さ99m）よりも直線距離は遠く、高さは低いので、窓を封鎖して展望を制限すれば、皇室のプライバシーを阻害することはないと考えている。

第二の課題は、建築工法である。江戸城天守閣を鉄筋コンクリートで建設するのは容易である。現在の建築技術をもってすれば1～2年で完成するであろう。しかし、それでは、歴史的建造物の再建とは言えない。やはり当時と同じ木造造りでないと意義

は薄れるだろう。ただし、国内で近年においてこれだけ巨大な木造建築物を再現した例はないため建築工法については十分な調査研究が必要になると考えられる。2001年に復原した金沢城の五十軒長屋は、県産の木材を使用し、大工、左官、板金など県内の職人による手作業が中心であったため、1,894m²の延べ床面積にも関わらず3年4ヶ月の工期を要している。

第三の課題は、建築基準法上の問題がある。現在の建築基準法では、木造建築による建物の規模制限として、高さ13m、軒の高さ9m、または延べ床面積3,000m²を超える建築物は主要構造部を木造としてはならないと定められている。大洲城再建の際には、2年近くの粘り強い交渉により保存建築物として建築基準法の適用除外の認定を受けることで法律の壁をクリアしたが、江戸城天守閣においても、木造で建築するためには、防火設備を徹底的に整備するなど安全性を確保したうえで、適用除外の認定を受ける必要がある。

おわりに

このように史実を尊重しようとするれば、技術的、法的な課題をクリアせねばならず、ハードルが高いのは事実であるが、その意義を鑑みれば、クリアする価値があるのではないか。ビジネスで東京に来た外国人が江戸城天守閣を見たことで日本の城郭建築に関心を持ち、地方の城郭にも足を伸ばしてみようという気持ちになる、そんなことを考えるだけで嬉しくなるのではないか。

【参考文献】

新人物往来社「日本城郭大系」

江戸城再建を目指す会 HP

<http://npo-edojo.org/top.html>